備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	昭和62年度	根拠法令・例規等	下水道法
総合計画 大項目 基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	下水道課
中項目 基本施策	01 生活しやすいまちづくり	職・氏名	工務係長　小川　勝巳
小項目 施策	10 下水道	電話	0869-66-9702
事務事業名	03 雨水施設整備事業	このシート作成に要した時間	2.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	吉永排水区内の現認可区域内（９２．５ha）全ての住民・家屋等。
目的（何のために）	梅雨・台風等の集中豪雨による浸水被害を解消する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	年次的な計画により主要な管渠を整備し、梅雨・台風等の集中豪雨による浸水被害を解消する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
管渠整備事業	浸水対策のため、認可区域内の雨水管渠を計画に基づき整備した。	◎
水道管外移設補償事業	管渠整備事業実施に伴い、補償物件が存在しないか検討を行った。	▲

事業費等

事業費等		単位	平成22年度実績		平成23年度実績		平成24年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		9,127		37,383		9,379
	必要人員 人件費	千円	0.13人	1,001	0.18人	1,267	0.09人	608
	事業費計	千円		10,128		38,650		9,987
財源	国県支出金	千円				10,000		8,300
	受益者負担	千円						
	繰入金	千円						
	市債	千円		8,300		23,500		5,600
	その他（　）	千円						
	一般財源	千円		1,828		5,150		-3,913
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	説明	当該年度に整備した主要雨水渠の延長		
結果指標量		39	71	41
対前年比	%	－	182.1%	57.7%
活動コスト	円	5,298,300	37,165,588	9,987,000
単位当たりコスト	円	135,854	523,459	243,585

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的や成果指標である数値目標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
公共下水道整備率	目標値（A）	90.50	91.00	92.00	92.50
	実績値（B）	90.50	91.20	91.60	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	100.22%	99.57%	100.00

成果指標設定の考え方・式や説明

当事業の評価は全体計画区域の整備状況（進捗率）としており、主要管渠の整備率を成果指標とする。
主要管渠整備率（%）＝主要管渠整備累計(m)／計画主要管渠総延長(10,320,0m)×100＝9,455.3÷10,320.0　91.6%

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

有効性の評価

目的達成度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：引続き、整備の効率化及びコスト縮減を図りながら、現認可区域内の主要管渠の早期完了を目指す。

総合評価

雨水渠の整備は災害を未然に防止するにあたり非常に有効である。また、近年ではゲリラ豪雨による局地的な災害も発生していることから、浸水等の災害の発生する可能性の高い箇所や幹線管渠等の事業効果の高いものから順次整備する必要がある。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：引続き、整備の効率化及びコスト縮減を図りながら、現認可区域内の主要管渠の早期完了を目指す。